

トレンド提言

現代社会における (C) SR 活動の意義 — 政治家・官僚 VS ベトナム学生・中国青年実業家 —

当センターは明年創立30年を迎える。この間、主たる事業は企業は社会的存在として健全な市場経済社会を構築するため CSR (corporate social responsibility) 活動を促進することであった。

事業概要としては研究会、交流会の開催、欧米への視察、ベトナム、中国への働きかけ、出版物による普及活動などである。その成果と到達点は後記にみられるとおりでである。

ところで近年の社会動向、わけても今春 (1/18 ~ 6/18) の国会審議の内容をみていると、社会的責任は政治家、官僚こそ自覚すべきだと痛感する。「森友学園」への国有地売却問題や「加計学園」の獣医学部新設問題、さらに「共謀罪」をめぐる国会「審議」については多くのメディアが批判的に報じた。

政府の答弁からは「確認できない」「記憶・記録にない」「隠す」「ごまかす」「逃げる」「茶化す」そして質問者や関係者を中傷するなど驕りの態度が見えた。不誠実な「ムダ答弁」の繰り返しで審議の時間を空費したことに国民の多くは不信と怒りを抱いている。

(道理を破る法はあれど法を破る道理なし (太平記))

これが国権の最高機関での審議なのか? 民間企業の会議ではありえないだろう。真実を明らかにするには多くの時間はいらぬはずだ。「simple is best」なのである。

安部首相はじめ関係閣僚や官僚の対応は、法的責任は回避できても社会的責任を免れるものではあるまい。

こうした意味で CSR は SR として追求されなければならないと考えられる。さて、以上と対照的なのは日本企業の CSR 活動の実績である。

日本は「経済は一流、政治は三流」といわれる所以 (ゆえん) でもあろう。小稿では当センター主催による日本企業の指導による「CSR 研修会」へのベトナム貿易大学学生と中国広東長興潤徳教育科技有限公司の参加状況を紹介したい。

○ベトナム貿易大学、広東長興潤徳教育科技有限公司の来日目的

- ・ベトナム貿易大学学生の研修は当センターとの「協定」に基づいて実施される。その趣旨は日越双方は「健全な市場経済の構築を目指すため CSR 活動が重要である」との共通認識に立って、相互交流を推進するもの。貿易大学は日本企業の CSR 活動に関心高く、今回は2度目の来日研修。
- ・中国の企業は医療教育（医師、薬剤師、看護師の資格取得教育）研修を目的として来日されるが、当センター企画にも参加される。
- ・中・越の訪日団に共通することは、第1に日本人、特に日本企業に学びたいという積極性。第2にメンバーが20～30代と若い世代であること。今後におけるアジア諸国との相互交流が期待される。

○CSR 研修日程

- 7月18日(火) 午後 開会式・歓迎会
〔研修講師〕
- 7月19日(水) 午前 日立製作所
午後 中部電力・東京ガス
- 7月20日(木) 午前 全日本空輸
午後 本田技研工業（ロボット視察）／東日本旅客鉄道（東京駅、新幹線、通勤電車視察）
- 7月21日(金)
・ベトナム訪日団は都内観光
・中国のメンバーは当センターの紹介で東京医科大学教授の講義、大塚製薬との懇談、「日本の介護」についての体験講話

○CSR 研修メンバー

・ベトナム貿易大学

	氏名	性別	生年	所属
教師	Dr. TRAN THI HIEN	女	1976	英語学部
	Dr. NGUYEN THI BICH HUE	女	1980	日本語学部
生徒	LE THI PHUONG	女	1996	日本語学部
	TO PHUONG LINH	女	1995	
	TRAN VAN ANH	女	1995	
	NGUYEN THUY LINH	女	1995	
	NGUYEN THI KIEU TRANG	女	1996	経営学部
	VU NGOC LINH	女	1998	
	HOANG HA LINH	女	1997	

・中国広東長興潤徳教育科技有限公司

	氏名	性別	生年	所属
	祁偉鵬 QI,WEIPENG	男	1990	代表取締役社長
	王迎波 WANG,YINGBO	男	1986	副社長
	呂雷朋 LYU,LEIPENG	男	1989	副社長
	李 醒 LI,XING	男	1991	ネット通信教育運営部長
	鍾海応 ZHONG,HAIYING	男	1985	安徽分校長
	張協云 ZHANG,XIEYUN	男	1969	顧問
	曹小冬 CAO,XIAODONG	男	NPO 日中親善・教育文化・ビジネスサポートセンター顧問、元中国新疆ウイグル自治区政府経済貿易庁長官補佐・駐日代表	

○ CSR 活動研究会の到達点

くらしのリサーチセンター主催による研究会、交流会（約30回）の成果と到達点を紹介する。

1.CSR 活動の意義と重要性

現代の世界における市場経済社会は多様な価値観の下にある。

企業（会社）の考え方については現代社会では大別して二つの流れがある。

①その一つは**資本（株主）を中心に利益追求を求める立場**で、株主資本主義とも呼ばれている。

その特徴はおおよ次の点にある。

- ・私的資本の利益至上主義は成果、効率重視優先。そのため人件費をはじめコスト削減となる。
- ・過度な競争を煽り、企業内部にあっては劣悪な労働条件を強行し、対外的には弱肉強食の格差社会が拡大する。
- ・市場開拓のため「規制緩和」を求め「官から民へ」にみられるように公共性、公益性の高い分野にまで利益至上が追求される。
- ・競争至上主義は量的（価格）競争が中心となり質的（製品、商品、サービスの安全性、耐久性、信頼性）競争は軽視される。
- ・金融資本主義の段階に至ると、政治と深く結びつき、政治腐敗を助長し、政府の政策を左右する。

以上の立場からは CSR という発想は出て来ないと言える。

②もう一つの考え方は企業とは資本だけでなく、労働者、取引先、お客様、地域社会など**ステークホルダーを含めた組織**とし、社会のために存在するとする立場である。

この立場の特徴は次の通り。

- ・企業が一時的に潤うのではなく持続的に発展するため、そして当該企業だけでなく**多くの企業、国民、生活者が共存**しようとする発想。
- ・現代の市場経済社会の歪み（不公正な競争、格差、人権、労働、環境等）を企業が強制されることなく自主的に企業倫理性を高めることにより是正し、健全な市場経済社会を構築するもの。
- ・経営スタンスとして「利他」を大切にする。

2. 具体的な取組むべき課題

CSR 活動は時代の変遷により、あるいは業種、業態により取組むべき課題や重点は異ってくる。以下、各種事業に共通する今日的課題について取り上げてみたい。

- ・ 法令の遵守（コンプライアンス）
- ・ 雇用責任を全うする
- ・ 取引先との公正な契約の締結と契約の完全履行
- ・ 国民、生活者（消費者）との対話
（トウーウェイコミュニケーション）の実施
- ・ 国民、生活者（消費者）のニーズに基づく生産、供給、サービスの提供
- ・ 顧客満足度の達成
- ・ 環境重視（身近なことから地球規模に広がる問題）と環境問題への取組み
- ・ 能率的な経営と適正な原価、適正な利潤を目指す
- ・ 社会への貢献活動
- ・ 政治腐敗に加担しない
- ・ 内外社会から信頼される事業の継続発展に尽す